



黒岩探訪バックナンバーが小学校のウェブページに載っています。「黒岩探訪」で検索してください。

黒岩探訪

たんぼう

44
KUROIWA
くろいわ

黒岩の地層・地盤

小学校では、六年生で「土地のつくりと変化」の学習をします。地層を、実際に見学し、層の重なりを観察します。学校によっては、適当な場所がなく、現地見学ができないこともあります。しかし、黒岩小学校では、学校裏の歩道橋下で地層の学習や、火山豆石（古い名称は「雨だれ石」）の層を観察できます。

おそらくベントナイトの採掘が盛んだった時には、もつと地層観察に向いていて、所があつたはずですが、今では難しいと思います。そんな中、1月19日の公民館事業「ふるさと黒岩歴史学び隊」で案内した範囲に、比較的厚い層の広がりを実感できる所があります。田中の集落から高林城に登る途中の谷津にあり、写真の崖のように谷津の水田をさむ両側の崖の地層が確認できます。では、これらの地層が堆積した時代はいつでしょうか？

かぶらの里の露頭ガイド』（平成25年3月19日群馬県立自然史博物館・かぶら理科研究会）を参考文献として概要を説明します。まず、富岡市全体は大きく二つの地盤に分けられます。一つ目は、大塩ダムより南側です。ここは約二億年以上前の中生代ジュラ紀の地盤です。二つ目は大塩ダムから北側の富岡市のほとんどです。こちらは約千六五〇万年前、約千万年前に海で堆積した富岡層群・安中層群を地盤として残っています。この層の厚さはなんと四千メートルもあるそうです。また、南北二つの地盤は全く違う時代のものです。この間には、日本列島を縦断する中央構造線と呼ばれる大きな断層が走っています。



この北側の地盤を略図で示すと次のようになります。下は、その後日本列島の底で堆積した様子を簡略図で示したものです。富岡製塩場南側の崖形成時に傾きながら隆起した様子を形成しています。富岡製塩場南側の崖の地層は原田篠層にあたり、黒岩は庭谷層を地盤とします。時代的には約千三百万年前の地層です。黒岩に「火山豆石」や「ベントナイト」もこの時代の形成物といえそうです。

安中層群	約1000万年前	板鼻層
	約1200万年前	原市層
	約1300万年前	庭谷層
富岡層群	約1550万年前	原田篠層
	約1600万年前	井戸沢層
	約1600万年前	小幡層
	約1650万年前	牛伏層

